

SEA village

半農半漁の「半漁」の新たな拠点となるマリーナ。
大境を訪れる人々の海の玄関口となり、特徴的な白い岩礁の崖が人々を出迎える。
マリーナは定置網や蛇が島のような海の風景をより近くで見ることができ、
ハウスボートの増減によりその外観は日々変化する。



海からみたシービレッジ

シービレッジ模式図



船が増減し、海上からの見え方が変化する

3年の信濃川の演習のコンセプトであったその土地の自然環境の良さも悪さも「受け入れて活かす」を応用し、
(1) 海上 (2) 海食崖の入り組みや高低差のある土地という環境を活かし、土台をマリーナのみとし、建設物をたてず船という可動する宿泊施設を用いることで、環境の弱点をカバーし、新しい滞在の可能性を秘めた「船の村」を計画した。

船の増減による見え方の変化のバリエーションがより多様化するよう様々な矩形を検討した結果：

- (1) 多方向に線が伸びる形
- (2) 閉じ切っていない囲まれた形
- (3) 崖側は水深が浅すぎるところがあるため、上の形が崖面に接するように配置する
→この要点を押さえてできた形が定置網と同じ形状になった



マリーナ B
グラスボートが停泊。
蛇が島アクティビティの出発点。

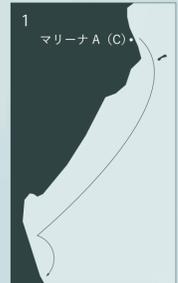
マリーナ A
平均的なハウスボート（長さ約 8-15m、幅約 2.5-4m）
が停泊すること想定。観光客が滞在する。

マリーナ C
一隻のみ停泊することができる。
階段を上がると見晴台がある

45
貨物・人運搬用の斜行エレベーター



見晴台



航路 1: マリーナ A (C) - 漁港 - 氷見駅 航路 2: マリーナ B - 蛇が島 回遊ルート